

第18回川口市美術家協会選抜展

2023年6月21日(水)～7月2日(日)

川口市美術家協会の各分野から選抜された会員の秀作展です。日本画 11 点、洋画 34 点、彫刻 10 点、工芸 13 点、書 22 点、写真 11 点(合計 101 点)の展示を行いました。

この展覧会は川口市立アートギャラリー・アトリアの開館を契機としてはじまりました。川口市には様々な専門分野の美術家があり、それぞれのアート活動で活躍しています。

主催：川口市美術家協会



みんなで大きな絵を描こう

2023年4月22日(土)

講師：玉掛 由美子さん

8m四方の大きな布に、参加者それぞれがからだ全体を使って、思い思いに絵を描きました。手や足に直接絵の具をつけたり、筆やスポンジを使ったり、バケツに絵の具の液を汲んでそのまま広げたり、なんでも OK。講師の玉掛さんからは、「今日は禁止事項はなく、みんなで楽しくからだを使って絵を描きましょう！」の声かけがありました。

参加者は、3歳から9歳までの子どもたちと保護者でした。

完成した作品は4/23から4/30まで展示しました。



広場とつながる彫刻展

太田隆幸 個展

2023年4月29日(土)～5月12日(金)

太田隆幸さんの、鉄でできた幾何学模様が特徴の作品の展覧会を開催しました。マグネットの仕掛けがあるものもあり、多くの子ども達が直接作品に触れることができました。ウッドデッキにも作品を展示し、展示室と外の広場が作品を通してつながり、開放的な空間で、通りすがりの人たちが気軽に作品に触れて楽しんでいました。

4/30、5/6にワークショップ「びかびかめだる」「ゆれるこいのぼり」を開催しました。



キャンパスにアクリル画を描く

2023年5月19日(金)、20日(土)

講師：渡辺 依理さん

アクリル絵の具の多彩な表現、特徴や技法を学ぶ講座を実施しました。

キャンパスに、アクリル絵の具とメディウムという画材を使用して、凹凸感や透明感のある絵肌の作り方、そして「波」の表現方法を学びました。実際に「波」をテーマに、参加者が1枚の絵を仕上げ、どれも素敵な作品が出来ました。



手でふれてみる世界

2023年6月17日(土)

講師：岡野 晃子さん



視覚に障がいのある夫妻が創設した「オモロ触覚美術館」(イタリア)を舞台にしたドキュメンタリー映画「手でふれてみる世界」の上映会を開催しました。この映画を通して、視覚に障がいのある人もない人も、すべての人に開かれた美術館の存在を知り、参加者それぞれが「開かれた美術館」について考えました。

映画鑑賞の後は、監督の岡野晃子さんによるアフタートークと、彫刻作品に触れるワークショップを行いました。アイマスクを装着して直接手で作品に触れ、その後、感触や記憶をもとに絵を描きました。



川口市小・中・高校硬筆展覧会

2023年7月5日(水)～7月9日(日)

市内小・中・高校の児童生徒の書写・書道教育の振興をはかるために毎年開催しています。各校の優秀作品並びに県展覧会出品・入賞作品を一堂に展示し、多くの鑑賞者でにぎわいました。

主催：川口市教育研究会 書写研究部

ATLIA NEWS for TEENS



川口市立アートギャラリー・アトリアから、10代の皆様に向けた広報誌

ごあいさつ

こんにちは。今年の4月から、川口市立アートギャラリー・アトリアの管理運営を行っている株式会社21世紀文化芸術研究室です。

アートやアトリアの活動をより身近に感じていただきたいと思い、10代のみなさまに向けた広報誌を創刊しました。「自分は絵が下手だ」とか「アートはむずかしい」と感じている人もいるかも知れませんが、アートには様々な表現があり、日々更新されていますので、そうした思いをいったん手放して、自由な心でアートに親しんで欲しいと思っています。私たちはそのために色々な工夫をしていきます。

アトリアは、これまでと同じく、さまざまな企画展覧会、ワークショップや講座の実施、川口市との共催展、ギャラリーの貸し出しなどを行っていきます。ホームページや SNS でもお知らせしていきますので興味のあるイベントがありましたら、ぜひ参加してくださいね。

広報誌「ATLIA NEWS for TEENS」では、イベントのお知らせの他に、川口にゆかりのある美術家や国際的に活躍するアーティストなども紹介していきます。これからどうぞよろしくお願いいたします！

01.

ごあいさつ

今後のイベントスケジュール
スタッフ紹介

02.03.

川口市役所に行ってきた。

アトリアの今後のイベント

04.

開催講座・展覧会報告

SNSはじめました！
施設案内
編集後記

SNSはじめました！企画展・イベントの最新情報やレポートを発信中！フォローをお願いします♪

Instagram(@art-gallery-atlia)

日々のギャラリーでの出来事や、イベントのレポートを更新中。アトリアの雰囲気を見て下さい♪



Twitter(@artatlia)

企画展やワークショップ、イベント等、アトリアの最新情報はこちらをチェック！



LINE

ギャラリーに関する様々な情報を配信中。ご質問やお問い合わせもお気軽にどうぞ！



Facebook

Facebookも更新中！こちらもぜひご覧ください。



川口市立アートギャラリー・アトリア

開館時間…10:00～18:00(最終入場 17:30)
休館日…月曜日(月曜日が祝日の場合は翌平日)、年末年始、施設整備期間

駐車場はありませんので公共交通機関をご利用下さい
JR川口駅(京浜東北線)東口より徒歩約8分

〒332-0033 埼玉県川口市並木元町1-76
TEL 048-253-0222

https://atlia.jp/



記念すべき第1回目の「ATLIA NEWS for TEENS」はいかがでしたでしょうか？
今後もみなさんに沢山の楽しいアートの展覧会や講座、企画イベントの情報をお届けしていきますので、引き続きよろしくお願いいたします！

川口市立アートギャラリー・アトリア
ATLIA NEWS for TEENS
編集後記
編集：岡村春香、吉田ひとみ、溝口亜紗、武井智子
発行日：2023年7月
発行：株式会社21世紀文化芸術研究室

今後のイベントスケジュール

7月	8月	9月	10月	11月
7/29 ①アートのツール・マテリアル展	8/16 8/20 9/2 ③人とデザインのはなし (●ワークショップ：9/2)	9/6 9/10 ④水道ポスターコンクール展示会	10/21 10/22 川口市小学生図画コンクール入賞作品展	11/3 11/26 川口市市政施行90周年記念 旧田中家住宅100周年記念 「盆栽と川口」(仮)
7/30 ②カラーでつくる森の動物王国 (●ワークショップ：7/30,8/3,8/10)	8/16	9/24 ⑥アートマップをつくろう	9/16 9/23 ⑤日本の伝統工芸と染色	10/28 10/29 ⑦静物デッサン

●…展覧会 ●…ワークショップ ★…講座 予定は変更する場合があります。詳細や貸しギャラリーの展示情報についてはアトリアホームページをご確認ください。

スタッフ紹介 アトリアで働くスタッフをご紹介します！質問：①ひとこと②好きな食べ物③はまっていること



①親しみやすいアート施設をみなさまと創ってみたいです。よろしくお願いします。
②カレー③塩レモン味



①アトリアのイベントや展覧会でみなさまとアートを楽しめたらうれしいです。よろしくお願いします。
②お寿司③茶道(最近習いに行こうと計画中)



①お気軽にお越し下さい。お待ちしております。
②ラーメン③サイクリング、お散歩



①アトリアでお会いできるのを楽しみにしています！
②餃子③ウォンパットてれび

川口市役所に行ってきた。



2020年5月にオープンした川口市役所第一本庁舎。

エレベーターホールやシビックキューボラ（吹き抜け）などには大きな油彩画が11点飾られています。

この11枚の絵は川口市出身の3人の作家が描いた作品です。

この作品の制作の想い出や、それぞれのアートとの関わりについてインタビューしてきました。

川口市には地域ゆかりのすばらしい作家がたくさんいます。



作品制作時、奥ノ木信夫 川口市長と。(2019年7月撮影)



アートギャラリー・アトリアの今後のイベント

夏の講座・展覧会

①アートのツール・マテリアル展

日本画、水彩、油画、彫刻、陶芸、版画など、作品と共に、さまざまなジャンルの作家が愛用している道具と素材（技法）を展示。各作家の制作方法の中にある素材への思考や法則、遊戯性を紹介します。
期 間： 7月29日（土）～8月16日（水）
対象年齢：全年齢（入場無料、申込不要）

②コラージュでつくる森の動物王国

夏休み期間中に、午前・午後の時間を使ってアトリアに作られた「森」に、それぞれが制作した「動物」を好きな場所に飾る参加型ワークショップを開催します。
日にち： 7月30日（日）、8月3日（木）、8月10日（木）
各日 10：15～15：30（12：00～12：45 休憩）
対象年齢：小学1年生～（保護者の参加も可）
参加費： 1,000円 ※要申込（締切7月20日）
関連特別展示：7月30日（日）～8月16日（水）まで

③高校生にオススメ！人とデザインのはなし

川口市出身の長崎綱雄さん（プロダクトデザイナー・多摩美術大学教授）をお招きし、講座とワークショップを行います。
日にち： 9月2日（土）13：30～15：30
対象年齢：15歳以上（高校生から）
参加費： 1,000円（学生は無料※学生証を提示） ※要申込（締切8月26日）
関連特別展示：8月20日（日）～9月2日（土）16:00まで

申込方法： event@atlia.jp に件名「イベント申込」、本文に下記①～⑦を記載しメールでお申込みください。応募者多数の場合は抽選となります。申込メール受信後3開館日以内に受理メールを、各イベントのおよそ1週間前までに結果通知メールを送信します。※メールが届かない場合はお電話ください。
①希望のイベント名、②希望日時、③参加者の氏名・ふりがな（複数の場合は全員）、④年齢・学年、⑤郵便番号・住所（集合住宅は建物名も）、⑥電話番号（緊急時に連絡がとれるもの）、⑦このイベントを知ったきっかけ

詳細はホームページ (<https://atlia.jp/>)、広報かわぐちをご確認ください。



アトリアHP QR

ワークショップ

展覧会

講座

*展覧会・イベントの予定について記載している予定は、令和5年7月時点のものです。事情により変更する場合があります。

秋の講座・展覧会

④水道ポスターコンクール展示会

市内小学校4年生を対象としたコンクールの優秀作品を展示します。
期 間： 9月6日（水）～10日（日）（入場無料、申込不要）

⑤日本の伝統工芸と染色

日本古来の染めの手法のひとつを伝統工芸の江戸型染め師である西耕三郎先生に学びます。（ハンカチの染色体験と講義）
日にち： 9月16日（土）、9月23日（土）
※8月以降に申込開始 詳細はHP・広報かわぐちにて

⑥アートマップをつくろう

川口のアートを探検したり、新しい地図をつくります。
日にち： 9月24日（日）
※要申込 詳細はHP または広報かわぐちにて

⑦静物デッサン

洋画家（油彩）の岩田史朗先生にデッサンの基礎・物の見方を学びます。（静物デッサンと講義）
日にち： 10月28日（土）、10月29日（日）
※9月以降に申込開始 詳細はHP・広報かわぐちにて

アトリア（以下A）：宇田川さんは、エレベーターホールの3枚の絵を描かれました。上の階へ行くごとに、川口で生まれ成長して、友人ができ、社会人になり、そしてまた新しい家庭を持つというストーリーで、川口で生活する魅力が感じられ、ほのぼのとあたたかい気持ちになりますね。
宇田川：私自身も川口で生まれ育ち、今も川口で暮らしています。川口で生活している人の、ささやかな幸せを感じていただけたらと思います。特に、芝川の夕焼けの作品は、私が高校生の時剣道部の稽古が終わって帰宅する際、いつも芝川に架かる橋を渡っていたので、実際に心に残っている風景です。
A：市庁舎の絵の制作は、宇田川さんにとってどんな経験になりましたか。
宇田川：絵に描く人たちは、どんな生活をしているのかという視点を意識しました。例えば、5階のエレベーターホールに飾ってある、図書館で夜、本を読んでいる女性の作品は、都内か帰ってきたところか、仕事が終わってほっと一息ついているのか、夜図書館で一人で本を読んでいるのか人にとってはどんな時間なのか、など色々なことを想像しながら描きました。学校で習った静物画、人物画、風景画というジャンルにくくれない作品を描いたのが初めての経験でしたので、その後の制作の発想

うだがわ かく 宇田川 格

川口市美術家協会事務局長（会員） 白日会会員
川口市元郷に生まれる
領家小→領家中→川口北高校
多摩美術大学卒業



（上から）「家路」「ひととき」「朝日をあびて」／芝川スキップ橋、中央図書館、荒川河川敷の風景です。

にも大きくなりました。

A：宇田川さんは今、絵画教室を運営しています。子どもたちにもたくさん接していますが、美術は学年が上がるごとに、だんだん遠い存在になっていきます。何か思うことはありますか。
宇田川：絵画教室でも、やはり親御さんの手を離れる中学生以上になると生徒の数は減ってきます。それでも続けてくれる子はいるので、ただ、中学校になると美術が特別なものになっていって、進路とか将来の職業とかそういう大義名分がないと続けられないみたいな思われがちなのも残念です。「ななを描きたい、続けたい」だけだっただけな理由の一つとして十分だと思っています。

A：教室を運営しながら、ご自身の作品の発表を続けることについてはどうお考えですか。
宇田川：絵描きだけで食べていくことは確かに難しいのですが、だから絵を教えているつもりはありません。画家の先輩には、早く教える仕事をやめられたらいいね、なんて言うてる人もいますが、そういう感覚は私にはありません。絵をきちんと教える人でありたいから、自分が現役の作家として活躍している姿を見せたいという思いもあっていきます。

A：教室を運営しながら、ご自身の作品の発表を続けることについてはどうお考えですか。
宇田川：絵描きだけで食べていくことは確かに難しいのですが、だから絵を教えているつもりはありません。画家の先輩には、早く教える仕事をやめられたらいいね、なんて言うてる人もいますが、そういう感覚は私にはありません。絵をきちんと教える人でありたいから、自分が現役の作家として活躍している姿を見せたいという思いもあっていきます。

「私たちの街・川口・明るい未来に向かって」四部作。
（左上）「～歴史～」（右上）「～花植木産業・文化財～」
（左下）「～祭り～」（右下）「～文化・スポーツ～」



したら すぐる 設楽 俊

川口市美術家協会会員 立軌会同人
川口市宮町に生まれる
原町小→川口西中出身→都内の高校へ
日本大学大学院芸術学研究所博士前期課程絵画分野修了



A：吉住さんはいつから絵の道に進もうと思ったのですか？
吉住：私は小さいころから家で絵を描くのが好きで、中学生の時には美術の方に進みたいと思っていました。画家になるというよりは、美大に行きたいと思っていて、高校もデザインコースに進み、多摩美術大学絵画学科油画専攻に進みました。

A：美術大学に進んでも、卒業後に絵を描き続ける人は少ないというのを耳にします。吉住さんが描き続けられている原動力みたいなものはありますか。
吉住：大学3年生の時にゼミの先生がパリに研修連れて行ってくれました。ポンピドゥーセンターでボナールの一連の作製見るときに、涙が出てくる動けなくなりました。作品から光を感じたこといいますか。あの光を見たときに、自分も表現したい、あと5年は絵を描けるなと思いました。それから節足節目、先人の絵にとても感動する機会があり、それが自分の「もつと

A：シビックキューボラの4枚の大きな絵を描いた設楽俊さん、それぞれ祭り、歴史などのテーマに分かれ、さまざまなモチーフがリズムミカルに配置されています。赤青黄緑の鮮やかな色彩が印象的で、楽しい気分になりますね。
設楽：ありがとうございます。改めて見ると手を入れたくなりますが、公共の場に飾ってもらい、本当に光栄に思っています。後にも先にもこんなに大きな絵を描いたのは初めて、高さが三・六メートルあるのでアトリエに足場を組んで描いたのも

こういう表現がしたいというモチーフをシヨンになって、今に続いています。
A：第一本庁舎の絵の制作は、吉住さんにとってどんなものになりましたか。
吉住：市庁舎は、絵に興味のない人もたくさん出入りするもので、そういう方たちにもわかりやすいものを描く、ということを初めて意識しました。普段ギャラリーや美術館の展覧会で発表する時は、ある程度絵に興味のある人に見られますが、そこは大きな違いだと思います。だから、どんな方が見てもわかる、絵にわかりやすさが必要だなと。でもどちらかというと、自分が目指す絵はあまり説明的はしたくないので、求められているものと自分の絵のスタイルを擦り合わせていくことに苦労しました。今思えばとても大きな経験になりました。公共の場に飾ってもらえるというのは本当にありがたいことで、これからもそれに見合うような絵を描き続けていきたいと思っています。

A：吉住さんは、小学生のお子様がいらっしゃいますが、子どもたちとアトリアのつながりについて、どんなことを感じていらっしゃいますか。
吉住：子育てをしていて、社会で生きていくにはインプットすることがものすごく多いと感じています。学校の勉強も習い事もそうですが、でも絵を描くことは、すごく簡単にできるアウトプット、自分を表現することです。表現するということ向か上手にできないのはいけないと思われがちですが、絵を描くというのは本来的には自分自身を見つめて、解放していける作業だから、その楽しさ、良さをもうと知ってほしいと思っています。



よしずみ ひろみ 吉住 裕美

川口市美術家協会会員 白日会会員
川口市元郷に生まれる
元郷南小→領家中→都内の高校へ
多摩美術大学卒業



（左から）「母子と」「緑あふれる休日」「市の花・鉄砲百合（てっぽうゆり）」「市の木・山茶花（さざんか）」／「母子と」は子どもの成長と未来を想って制作されました。「緑あふれる休日」は川口西口公園、「市の花・鉄砲百合」「市の木・山茶花」はグリーンセンターの風景です。

良い思い出です。
A：設置してから3年が過ぎました。どんな苦労があったのでしょうか？
設楽：最初に川口の歴史・文化というテーマをいただいたのですが、改めて考えてみるとちゃんと川口のことを知らないなと思って、・・・まずは川口中史を買い、青木本にある川口市役所分館に行きました。
A：市史ですか・・・笑
設楽：私は生まれてからずっと宮町に住んでいますが、川口は都会のようでも、自然はたくさんあって面白いなと思います。小さい頃は荒川がよく釣りをしたり、リリアが身近にあった自分の肌感覚と、川口を象徴する要素を絵にできたらと思って描きました。
A：設楽さんは画家として、個展やグループ展に参加するなどして活躍されていますが、初めての個展がアトリアだったそうですね。
設楽：そうです。ちょうど大学院の修了が近づいているころ、とにかく

発表しなきゃと思う場所を探していた時、アトリアが開館しました。銀座のギャラリーを借りるより五分の1くらいの価格でありがたかったです。アルバイト代をつぎ込んで、見よう見まねで案内状を作った先生や友人に来てもらいました。初めて自分の絵だけで空間を満たし、空間と作品の関係についても良い勉強になりました。
A：設楽さんは現代、高校で美術を教えるながら、作家活動をされています。アートと子どもたちの関係についてはどうなことを感じていますか。
設楽：アニメやアイドルのポスターを貼るように、絵をもっと気軽に家に飾って慣れ親しんでほしいなと思います。子ども時代に描いた絵でもよくて、上手い下手はなくて、その時にしか手がないものの魅力があるのか。かしまらずに、身近にアートを感じて欲しい。そういう意味でも、住んでいる街に美術館があったらいいなと思っています。

宇田川さん、吉住さんが出品（白日会）：
「明日の白日会展」2023.8.23～28（日本橋高島屋S.C.本館6階 美術画廊）
「白日会創立百周年記念展」2024.3.21～4.1（国立新美術館）

宇田川さん、設楽さん、吉住さんが出品（川口市美術家協会）：
「川口市美術展」2023.12.3～12.10（川口市総合文化センターリリア）
*15歳（高校生以上）から出品できます

設楽さんが出品（立軌会）：
「立軌展」2023.10.31～11.8（東京都美術館）